

変わりました!!

さらに やさしい まどぐちへ

これまで、「分かりづらい」「手間がかかる」という声が寄せられていた市役所の窓口。1月からお客様に「やさしい」窓口へと生まれ変わりました。レイアウトの変更とシステムを刷新することで、お客様の待ち時間を減らし、経費も削減します。

1 手続きに関連する課をワンフロアに!

引っ越しや結婚などのライフイベントに係る手続きの窓口を1階にまとめ、お客様の移動距離を少なくしました。また、書類記入の「手間がかかる」を見直し、便利で快適な窓口になりました。

【該当窓口】

資産税課、市民税課、収税課、市民課、保険年金課、こども課、保育課

- ◆「こども課」「保育課」が2階から1階へ移動。お子様連れのお客様の負担が少なくなります
- ◆名前や住所などを、何度も書類に記入する負担が少なくなります



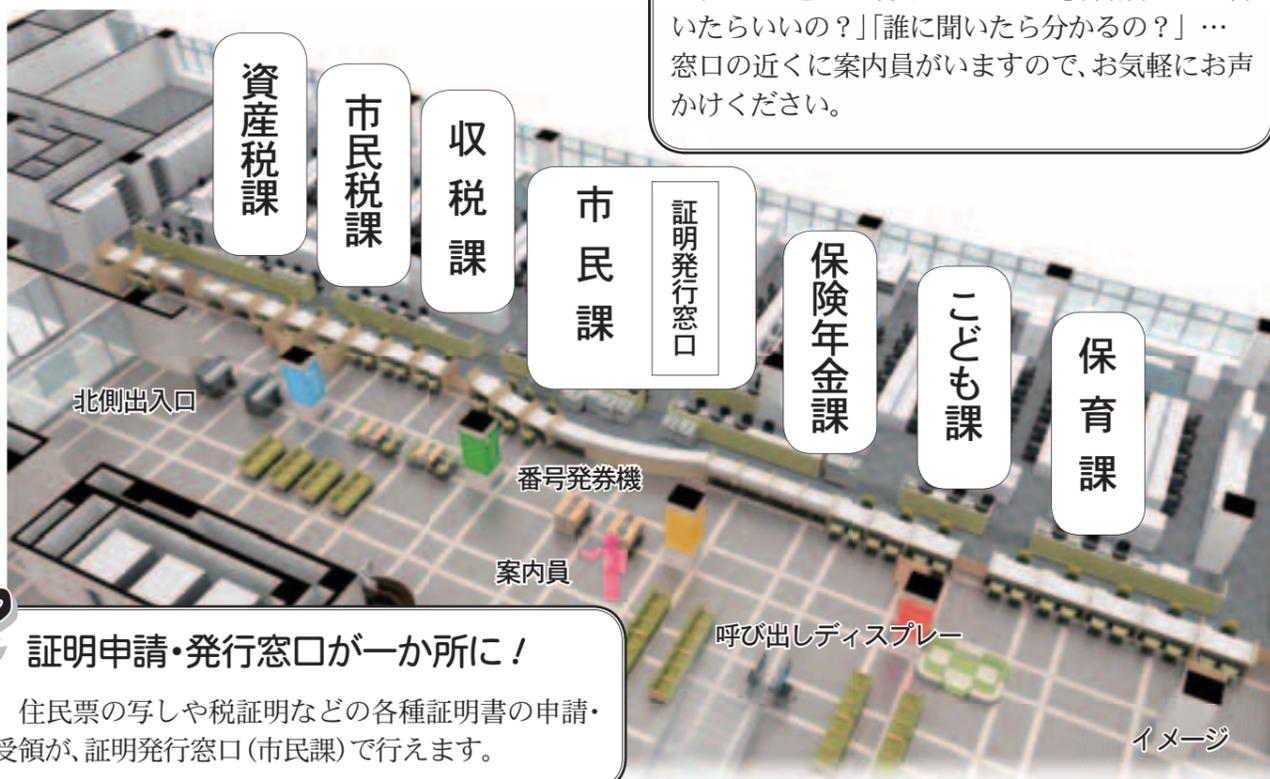
3 案内を分かりやすくしました!

案内表示や番号発券機などを設置しました。お客様に合わせた案内書を発行し、分かりやすくご案内します。

- ◆課名よりも手続き名を優先した案内表示に。さらに色分けをしているので、目的の窓口がすぐに分かります
- ◆番号発券機や呼び出しのための大型ディスプレイにより、お呼び出しの窓口を分かりやすくご案内します
- ◆年齢や家族構成など、お客様一人ひとりの条件に合った案内書を発行し、関係する手続きをご案内します

4 案内員が「分からない」を解消!

「どこの窓口へ行けばいいの?」「書類はどう書いたらいいの?」「誰に聞いたら分かるの?」…窓口の近くに案内員がいますので、お気軽にお声かけください。



2 証明申請・発行窓口が一か所に!

住民票の写しや税証明などの各種証明書の申請・受領が、証明発行窓口(市民課)で行えます。



イメージ

【色分けした案内表示】

- 青/税の相談・申告
- 緑/証明発行・住所変更・戸籍届出
- 黄/国民健康保険・国民年金
- 赤/子育て支援・保育



番号発券機・呼び出しディスプレイ (イメージ)

【証明発行窓口で取り扱う証明書】

住民票の写し、住民票記載事項証明書、戸籍、改製原戸籍、除籍、戸籍の附票、身分証明書、戸籍届出受理証明書、戸籍届書記載事項証明書、出産育児一時金に係る証明書、印鑑登録証明書、住居表示証明書、広域交付住民票の写し、市民税県民税課税・非課税(所得)証明書、法人(個人)事業届出済証明書、納税証明書、未納の額がないことの証明書、軽自動車税納税証明書(車検用)、固定資産土地・家屋評価額証明書、固定資産土地・家屋公課証明書、家屋物件所在証明書

※次の証明書は、資産税課(内線1123)で発行します

名寄台帳兼課税台帳交付、固定資産課税台帳登録事項証明書、住宅用家屋証明書、宅地課税証明書、固定資産課税台帳に登録されていないことの証明書

問合せ行革推進課へ内線7051

平成26年を迎えて ～市長年頭の言葉～



市長 仲川幸成

明けましておめでとうございませう。市民の皆様には、希望に満ちた新春を健やかに迎えのことに喜び申し上げます。本年は、昭和29年7月1日に市制を施行して60周年の年に当たります。狭山市の選歴であるこの一年を市民の皆様とともに祝い、素晴らしい一年にしていきたいと考えております。

さて、本年は1月から、来庁者の利便性向上のために総合窓口化を図ったところであり、年内には堀兼学校給食センターの更新事業も始まります。まちづくりの基本計画である第3次狭山市総合振興計画も残すところ二年となり、総仕上げの時期に入っております。後期基本計画では、協働の推進、子育て支援の充実、都市基盤の整備を重点的に取り組む三つの柱に掲げましたが、いずれも順調に推移しております。

協働の推進では、市民提案型協働事業の取り組みが加速し、狭山元気大学と狭山シニア・コミュニティ・カレッジも本年4月に統合し、新たな市民大学としてスタートします。子育て支援でも、祇園保育所の建て替えのほか二つの民間保育園の新設により、本年中に新たに170人の定員が確保されます。また、昨年導入したさやまっ子緊急メールは、過日、NHKのニュースでも取り上げられたように、全国的にも先進的な取り組みであり、災害が発生し保護者が帰宅困難となった場合などの大きな安心となつております。

都市基盤の整備でも、昨年、東京狭山線が開通し、狭山市に一体感をもたらし、感じられております。また、狭山市駅東口土地地区画整理事業も来年には完了する見込みであります。入曽駅東口地区市街地開発事業につきましても、現時点での開発を断念せざるを得なかつたわけですが、山積する課題の解決に向けて、できることから対応してまいります。次期基本計画でも、成熟した都市である狭山市を次のステージに昇華させるため、より多くの市民の皆様、特に、若い世代の皆様を借りながら、新しいまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

まずは、今年の言葉「未来を拓く」を合言葉に、これまでの60年を振り返り、新たな100年に向けて市民の皆様と一緒に時代を切り拓いてまいりたいと考えております。結びに、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、新年のごあいさつとさせていただきます。